



# 企業組合 こもねっと

<http://komo-net.com>

この30年で人口が半減した  
愛媛県宇和島市蔭淵。  
企業組合こもねっとは、  
豊富な海の恵にあずかりながら  
地域活性化に向けた課題に  
真真正面から取り組んでいる。



### 会社概要

所在地：愛媛県宇和島市蔭淵 1068  
業種：水産加工品販売業  
資本金：48万  
設立：2013年4月  
従業員数：7名



### STEP1 創業のきっかけ 手探りで始めた地域活性化。 任意団体「こもねっと」誕生

宇和島に突き出した三浦半島の先端に位置する宇和島市蔭淵で、地域の活性化に取り組み企業組合こもねっと。理事長の高木治さんは都内のリゾート開発会社での勤務を経て、実家の漁業を継ぐべく蔭淵に戻った。

「宇和島には地元の寄り合いの『お講』の文化があります。Uターン後、定期的に参加していたどの席でもいつも話題となるのは、廃れていく故郷についての話でした」

地域には「蔭淵を活性化させたい」と思う意欲的な若者が多くいた。地域の情報を発信したい、イベントを企画してにぎわいを取り戻したい、地域の名産品を売りたい。漠然としたそれぞれのプランを、手探りでやり始めることにする。それはこもねっとという「お講」の延長、最初は任意団体としてスタートだった。

まずは、地域の水産物をこれまでとは違う方法で売り出すことに。郵便局の「ふるさと小包」のノウハウを学び、ダイレクトメールで名産品のカンパチを売り出した。送り先は首都圏・近畿圏で暮らす蔭淵出身者。100通ほど送り、48件の注文と2通の激励の手紙があった。原材料の仕入れは、

生産者から直接は行わず、従来通り地元の漁業協同組合（当時・蔭淵漁業協同組合）から仕入れた。これには理由がある。漁協との共存共栄だ。大きな組織の漁協ではできないことと、小さく、まだ信用のない「こもねっと」ではできないことを、お互いが協力し合い、地域として取り組んでいきたいと、「こもねっと」は当初から考えていた。

### STEP2 事業スタート 本格的な事業化に向け、 「企業組合」でスタート

蔭淵出身者というコアターゲットに向けた直接販売、いかなればそれはアナログな地元応援型クラウドファンディング。地域の衰退によりここを離れざるを得なかった人たちは、応援の意味も込めて「蔭淵の若者による地域活性化事業」を後押しした。事業の本格化にともない、販路拡大や仕入れの強化を図るうえで法人格が必要になり、何ごとにも組合員みんな決めていくフラットな組織である「企業組合」を選んだ。

「企業組合こもねっと」では、蔭淵の地域密着型情報誌「コモマガ」の刊行を行っている。今では20号を数える同誌は、ほかの情報誌ではおおよそ扱わないような「地区の運動会」や「移住者紹介」など、非常にコアな地域のレ



蔭淵の子どもたちと行う環境学習。



好評な「真鯛の一夜干しシリーズ」。



「ガンガゼ」の駆除作業風景。



蔭淵密着型情報誌「コモマガ」vol.20。

### Point of note

■ 蔭淵とは  
企業組合こもねっとの活動拠点のある蔭淵は、宇和島市の中心から車で約1時間は、かつては真珠の養殖で栄えた時期もあった。現在の主な産業は真鯛や岩牡蠣などの養殖業。蔭淵湾の入り江には多数の養殖のいけすが並ぶ。1961年に開通した、日本一狭いといわれる「細木運河」は、同地区のシンボルとなっている。



「こもてらす」はかつての真珠の核入れの作業場。船着き場もカフェのウッドデッキに改装された。流木ベンチから湾を見渡せる。

## 『こもねっと』の成長過程それ自体が 蔭淵の地域活性化の物語になることを願っています

ポータルも掲載する。そして「コモマガ」の販促ツールの役目も果たす商品一覧には、季節に合わせた多彩な商品が並ぶ。真鯛の養殖も盛んな土地柄と、加工の機械化の難しさから、大手加工会社が手を出さない点に着目して手掛けた「真鯛の一夜干し」はヒット商品になった。今ではバジルやトマトソースなど、味のバリエーションも豊富だ。

新商品を地域のお祭りやイベントに積極的に出品し、認知を広げた同組合は、さらなる地域活性化を図り、カフェ「こもてらす」を2015年にオープン。日本政策金融公庫と信用金庫の協調融資により加工工場も併設した複合施設。地域住民の憩いの場になるとともに、地域外からの集客の拠点としての役割も期待している。

「こもてらす」は、言わば地域活性化のプレスハウス。実際に足を運ぶことによつてしか得られない、蔭淵の良さを感じてもらいたいんです。活性化には人とお金の循環が必要。週末には観光客も訪れるようになり、少しですが雇用も創出できました」

### STEP3 今後の展望 水産資源を次の世代へ残すために

現在、蔭淵の海は「ガンガゼ（毒性のトゲを持つウニの仲間）」による漁

場被害の問題が深刻化している。地域の活性化には水産資源の確保・改善が不可欠と考える同組合は、「蔭淵湾活性化プロジェクト」を事業項目に掲げ、漁場の再生にも注力。また、地域の学校では体験型の環境学習を定期的に行い、海を守ることの大切さを次の世代に伝えている。

「来年は、海上コンサートやサイクル&クルージングなどイベントも準備中ですが、それはあくまで集客戦略のひとつに過ぎません。蔭淵の活性化は「豊かな海」があつて初めて成立すると思います。こもねっとは海を守り、海の恵みを届ける」という基本的なスタンスを忘れてはいけません」

地域活性化への道のりは長く、世代を超えて取り組まなければならない事業である。事業の拡大による雇用の創出と海洋環境の保全の先にある蔭淵のさらなる活性化は、次の世代の若者たちにかかっている。

Profile

企業組合  
こもねっと  
代表理事  
高木 治さん

東京の大学を卒業後、リゾート開発会社を経て、家業の漁業を継ぐために蔭淵に戻り、地域の活性化に取り組む。2013年に、企業組合こもねっと設立。